

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名 <b>レッドスコピオン・サハラ</b>	投球者 <b>徳江 和則</b>	センター <b>平和島スターボウル</b>
RG <b>2.510</b>	△RG <b>0.052</b>	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

**テストボール：レッドスコピオン・サハラ**

フレアーの幅  インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

PAPからピンとの距離  番

4 インチ

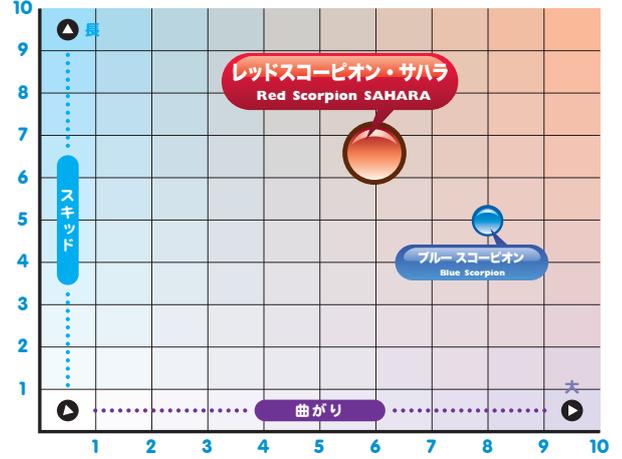
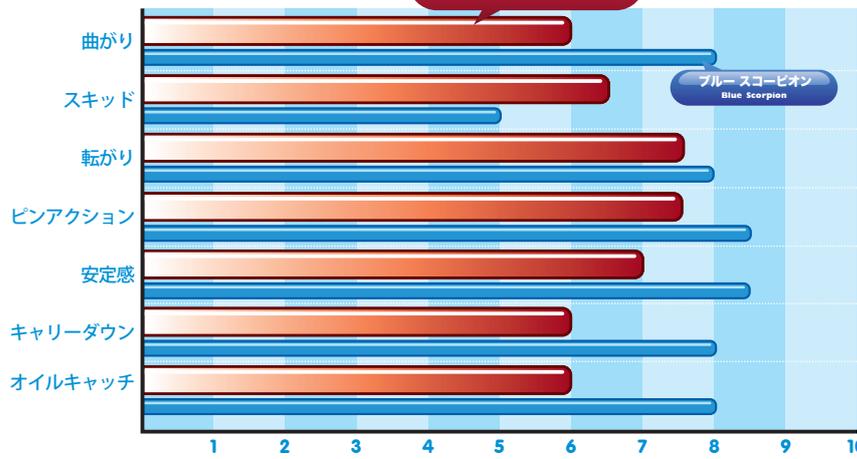
**比較対照ボール：ブルースコピオン**

フレアーの幅  インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

PAPからピンとの距離  番

4 インチ



### ボールの評価

走りのREDとキャッチのBLACK, 万能のBLUEの3種類を経て、スコピオンシリーズは基本的なスペック全てが出揃いました。今回のRed Scorpion SAHARAはスコピオンシリーズで最もスキッド力を持ち、ミディアムライト～ライトなコンディションでスコピオンの名の通り、一撃必殺の性能でリリース致します。

RED・BLACK・BLUE3種類の比較投球において一番オイルを感じ易いことは言うまでもありませんが、完全なドライゾーンでも反応は同じ走り系のREDよりもSAHARAのほうがシャープさがあり、REDよりも遅れて反応する刺さるようなリアクションはまさにスコピオンの名の通りだと思います。

現在のボールの主流はポリッシュ状態であってもキャッチ系のカバーストックのボールが殆どと言えるでしょう。逆に言い換えれば走り系のボールを探しても今のカバーストックの作りだとしてもキャッチが前面に出てしまい、走り系のボールであっても思うようなスキッドを得られないボールも多いのではないのでしょうか？また走りを優先した場合、バックエンドまで減少傾向を辿る走るだけのボールになる場合も多く、「手前と奥のバランス」はカバーストックが良くなった故の課題でもあると思います。

SAHARAの根本である「反応させる領域を定める」ことはスキッドさせられるオイル量を定め、反応させられる状態を決めることで、その領域は結果として少ないオイルでのスキッドの確保と、ドライゾーンでの反応へと変わります。その領域に拘ったからこそ、その領域で最高のパフォーマンスがでるボールに仕上がっています。

今までの最終兵器とは次元の違う、一撃必殺の新しいスコピオンの性能を是非お試しください。

### 特記事項

**シリーズ最大のスキッドとバックエンドの絶妙なバランス。特にアウトサイドを直線的にラインを攻めたときの爆発的な点数を予感させるリアクションはまさに一撃必殺の最終兵器となるでしょう。**